



会員近況

近畿大学理工学部
経営工学科

岩崎日出男

昨年夏、約7週間ほどの日程で、ある協会より海外渡航費の援助を受けて、第11回 IFIP Conference on System Modelling and Optimization と、第4回 International Conference on Mathematical Modelling の2つの国際会議への出席と、コペンハーゲン大学をはじめヨーロッパの5大学への訪問活動を行なうことができました。はじめてのヨーロッパで、しかも十分な予定も立てない一人旅でしたが、大変有意義な経験をもつことができました。

現在、化学物質の環境への影響度を評価する各種試験データのデータベース化を中心とするシステム作りと、それらデータにもとづく統計的な解析を主テーマとして研究しています。年々増加する化学物質に関する情報をいかに効率的に整理するか、また、多くの貴重な実験データをもとに、人体等への安全性に関する評価の類推を目的として種々手法の勉強を行なっています。

今後とも、諸兄のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、当学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

工業技術院機械技術研究所
システム部

大見 孝吉

FMS (フレキシブル・マニファクチャリング・システム) の調査と分析を続けています。工場めぐりと資料集めで大変でしたが、昨年までにFMS事例集もまとまり、多彩なFMSの全体状況が見えてきました。これを土台にして、FMSの運用と経済性に関する研究をはじめております。

一昨年(1982)の10月にはFMS国際会議が英国で開かれ、日本の実情を発表してきました。この会議でOR的な研究も発表されましたが、独断的モデル化と精密すぎる計算も聴衆に反感を生んでいました。問題を知らずに解いてみせることは、不遜のそしりをまぬがれないようです。

OR学会の活動には、最近まったく参加しておらず、会費を納めるだけになってしまいました。ただ、ORの

根源的な姿へのあこがれは残っていて、本誌をある種の期待をもって読ませていただいています。

東京大学
工学部都市工学科

岡部 篤行

距離という概念は数学において明確に定義されているが、現在私が研究の1対象としている都市空間の「距離」となると、なかなか明確にとらえがたい。ORにおける都市施設の最適配置問題では、従来、道路距離、時間距離、費用距離を採用することが多かった。しかし最近ではもう少し人間ぼさが重視され、いわゆる心理的距離、行動的距離と呼ばれる距離に光が当てられるようになってきた。

数例をあげてみよう。

等距離でも、曲る回数が多いルートと少ないルートでは等距離と判断されない。基点から等距離の地点でも都心方向にある地点と都心から離れる方向にある地点では等距離と判断されない。等距離でもアーケードのある路となない路とでは等距離と判断されない。等距離にあっても目的地の好感度によって異なった距離と判断される。

これらの経験則は体験的に多く語られているものの、データや理論に裏づけられている研究となるといまだ数少ない。そこで最近、一番単純と思われる歩行距離感について研究をはじめた。さまざまな物理的環境のもとで歩行実験を行ないながらデータを分析し、理論を考えている最中である。分析して行動的距離は距離の対称公理、三角不等式公理を満たしがたく、なかなか手ごわい距離であることがわかってきた。しかし何か新しい幾何学を考えるようで、むずかしいながらも楽しんで研究を進めている。

創価大学
経営学部教授、電子計算室長

蒲生 栄治
(筆名: 叡輝)

所属学会: 情報処理, 経営工学, 経営教育, 会計, 太平洋(おのおの日本, 学会を略)。研究: システム・ダイナミックス (80年まで) 文献95点 (主にSCSCあり, 72~77年) あり, リストはご希望の方にご送付します。ただし, 本文はコピー実費, 郵送料を切手でお願いします。訳本, システム・ダイナミックス・ノート(マダロ・ヒル) より共訳にて発刊(原著Study Note in System Dynamics)。今後, SD関連の研究としては, 教育および教育心理学, 社会心理学に対するものの開発。[現在の研究] CVAIS (Computer and Video Assisted

Instruction System), C A I に Video 映像を加えた System である。文部省助成を得て開発したが, ソフトの開発の協力者が学内のみでは不足であり, 各方面の専門を希望している次第です。諸兄のなかにご興味ある方は専門分野のいかにかわらずご連絡ください。私の著書: 流通システム設計 (三一書房), コンピュータ概論, COBOL ノート, FORTRAN ノート (以上理工出版)。論文は20余です。

連絡先 Tel 03-720-2456, 月水土のAMをお願いします。

行政管理庁
電子計算機共同利用施設 **金子 宏**

昨年4月から上記勤務となり, 計算機の運用管理に従事しております。計算機のジョブ投入から結果出力まで

の待ち行列と自分のジョブの出力を待っている人とを観察してみて, ORの視点でおもしろいと感じたことが多々ありました。

一例として, OSにはジョブの待ち行列中の扱いを定めるパラメータが多数ありますが, これらのパラメータ値の決定は相当にむずかしいようです。結局のところ, メーカーの提供する標準値をもとに数個のパラメータを変化させてみては山登り法的に最適値に近づける, といった方法をとっていますが, 交絡効果の見落としが心配です。

他の例を挙げます。頻繁に私どもの計算機を利用している人の中には, 他人のジョブの実行時間をジョブ名によって予想し, 長時間ジョブの影響を受けるキューに自分のジョブがつながらないようにする人がいます。このような学習機能をOSもっていて, 前例のパラメータをリアルタイムで変更できたらおもしろいのではないかと思います。

会合記録

編集委員会 (OR誌)	2月1日 (水)	(11)
表彰委員会	2月7日 (火)	(5)
視察団派遣準備委員会	2月13日 (月)	(6)
モニター委員会	2月14日 (火)	(3)
研究普及委員会	2月16日 (木)	(9)
文献賞小委員会	2月20日 (月)	(6)
OA化委員会	2月22日 (水)	(3)
研究部会・グループ主査会議	2月22日 (水)	(19)

入退会

●59年度入会 (学生会員)

稲垣久生	東京工業大学
桜井昭	埼玉大学
白川浩	東京工業大学
半井真司	埼玉大学
山口郁生	埼玉大学
吉崎収	埼玉大学
潘煥旭	東京工業大学

編集後記▶「OR教育」の特集は現在のOR教育の実態を知るうえで貴重な資料になることでしょう。特にアンケートによる実態調査はOR教育の傾向が浮き彫りにされ, たいへん興味深いものとなっています。森村先生をはじめ関係者の方々のご多大なるご努力とご協力に対し, 心より敬意を表する次第です▶講座「経済データの時系列分析と予測」は5月号まで続きます。6月号からは総

合報告「Queueing Network Analyzer」を3回にわたって連載します▶事例的な記事の要望がモニターの方からの意見に多いのですが, 基礎的・理論的な研究動向にも目を向けてほしいとする意見も一方であります。その意味で総合報告的なものをできるだけ継続的に行ないたいと考えています (J)

オペレーションズ・リサーチ

昭和59年4月号 第29巻 (新シリーズ第9巻) 4号 通巻280号
 代表者 横山勝義
 発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 (電話 03-815-3351~2) 〒113
 編集人 牧野都治
 発売所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円 (郵送料含) 年間予約購読料 9800円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社 (571-2548), 日経弘報社 (583-2241) へ